

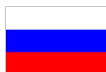
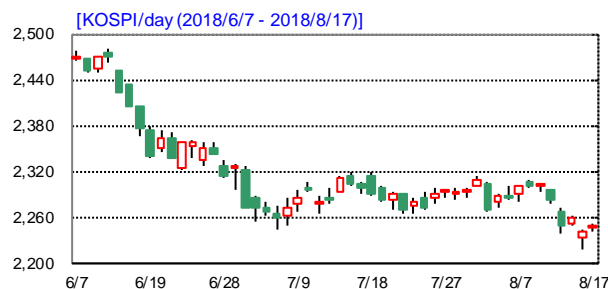


## 【韓国】 総合指数は週間で1.6%安と3週続落、今週は神経質な展開か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週初の13日から反落と反発を繰り返し、週間ベースでは1.6%安と3週続落。トルコの通貨リラの急落を受けた欧米やアジアの主要株式市場の下落や中国の景気減速を懸念する売りが優勢だった。15日は日本の植民地支配からの解放を記念する「光復節」の公休日のため、4日間の立ち会い。休場明けの16日は取引時間中に心理的節目の2200ポイントに迫る水準にまで下げ、終値は2017年5月2日以来ほぼ1年3カ月ぶりの安値を付けた。一方、南北首脳会談の9月開催合意を受けた買いは一定の下支えとなった。今週は2200ポイント付近で神経質な展開か。米国と中国の株式相場の値動きが相場を左右しそうだ、両国が貿易や知的財産権を巡る事務レベル交渉を再開すれば、買い材料になるとみられる。

▼指数チャート

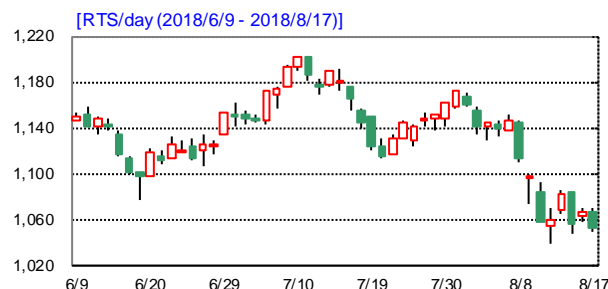


## 【ロシア】 RTS 指数は0.4%安と3週続落、今週も資金流出懸念などが焦点か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は0.4%安と3週続落。トルコリラの急落を受けた新興国からの資金流出懸念や米国による対ロ追加経済制裁への警戒感などを背景に上下に振れた。前週に7.7%安と急落した反動で、週明け13日は0.3%高と反発して引けた。一時的に急落したルーブルが反発し、安心感が広がった。14日も買い戻しが続き2.1%高と大幅に続伸したが、15日は米国による対ロ追加経済制裁への警戒感が再び高まり、2.4%安と大幅反落。投資規制が警戒されたITのヤンデックスが2.7%安、米国内での営業停止が懸念された国営銀行のズベルバンクが2.5%安となり指数を押し下げた。週後半もトルコリラの動向などをにらんで1%超の上下を繰り返した。今週は資金流出懸念や米国による対ロ経済制裁問題が引き続き焦点となるか。

▼指数チャート

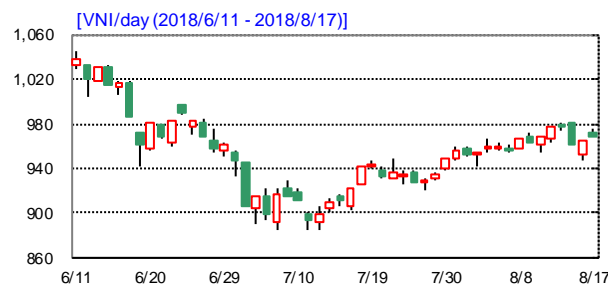


## 【ベトナム】 ベトナム指数は0.04%高と横ばい、今週は外部環境をにらんだ展開か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.04%高とほぼ横ばいながら5週続伸。週半ばに利益確定売りが強まったが、米中貿易協議の再開への期待が相場を支えた。トルコリラ急落で新興国からの資金流出懸念が続く中、週明け13日は前営業日比1.0%高と続伸。格付け会社のムーディーズがベトナム銀行など主要金融機関の格付けを引き上げたことも投資家心理の改善につながった。ただ、15日はペトロベトナムガスやベトナム外商銀行など足元で大幅に上昇した銘柄に利益確定売りが強まった。指数は前日比1.7%の大幅安で、前週末比では0.7%安となった。週後半は中国が米国と貿易協議を行うとの報道を受けて安心感が広がり続伸。週間ではほぼ横ばいで終えた。今週は米中貿易問題やトルコ情勢など外部環境をにらんだ展開か。

▼指数チャート



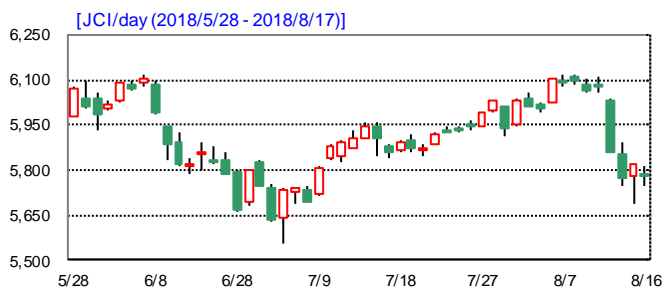


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 4.8%安、ルピア安進行を嫌気**

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で4.8%安と4週ぶりに反落。トルコリラ急落の余波を受けたルピア安が株式相場に波及した。週初の13日は、国際情勢に加え、前週末に発表された4-6月期の経常収支の赤字額が約4年ぶりの規模に膨らんだことが嫌気されて、指数は終値で前営業日比3.6%安と大幅反落。14日はさらに1.6%下落したが、15日は中央銀行が通貨防衛を目的として政策金利を0.25%引き上げ、5.50%に設定したことを受けて買い戻された。ただ、勢いは続かず、16日は再び反落して引けている。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。22日は巡礼の日のため休場。

### ▼指数チャート

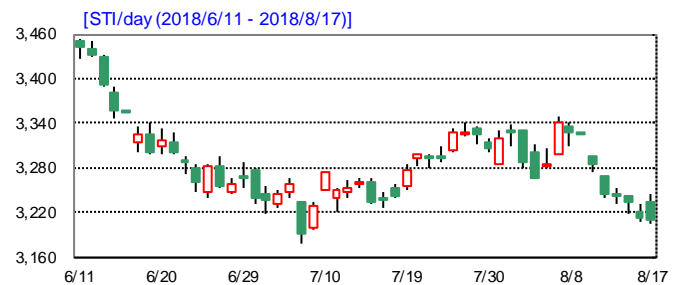


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.3%安、今週は7月のCPIと鉱工業生産に期待**

ストレーツタイムズ指数は週間で2.3%安と反落。週初からじりじりと下値を広げ、前週から17日まで7日続落と軟調に推移した。13日は4-6月期のGDP確定値が前年同期比3.9%増と市場予想から下振れしたことが嫌気されて金融株を中心に幅広い銘柄が売られ、指数は終値ベースで前営業日比1.2%安。その後も売り優勢の展開が続き、17日は7月の非石油地場輸出が前年同月比11.8%増と市場予想を大幅に上回ったものの工業関連株に売りが集中し、6週間ぶりの安値を更新した。今週は23日に7月のCPI、24日に鉱工業生産が発表される予定。22日はハリヤハジ（聖地巡礼祭）のため休場となる。

### ▼指数チャート

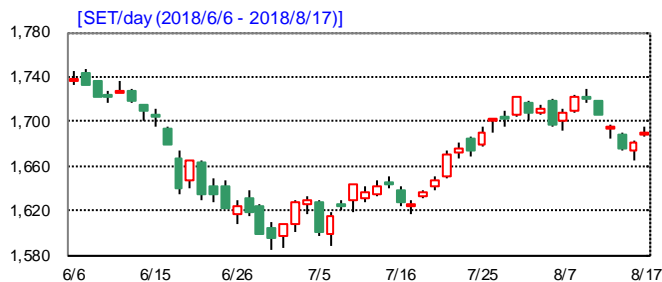


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET指数は0.9%安、今週は4-6月期のGDP成長率が焦点**

SET指数は4日間の取引で0.9%安と続落。週半ばまでの続落が響いた。連休明けの14日に終値で節目の1700ポイントを割り込むと、15日は原油価格下落の影響でエネルギー株が売られ、前日比1.1%安と3営業日続落。ただ、その後は徐々に買い戻され、17日は米中貿易摩擦の打開に向けて両国が協議を再開する方針を固めたことに加え、トルコの通貨安が緩和した効果で続伸した。今週は20日に発表された4-6月期のGDPに対する市場の反応が焦点となるほか、21日には7月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。前週末のNYダウが約半年ぶりの高値を更新したことは株式相場の追い風になりそうだ。

### ▼指数チャート

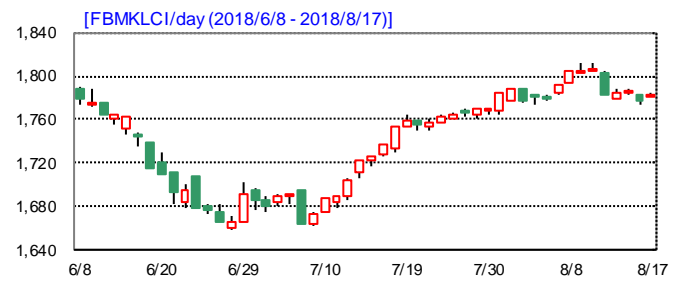


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.2%安、トルコ関連株が下落**

クアラルンプール総合指数は週間で1.2%安と6週ぶりに反落。週初に終値で1800ポイントを割り込むと、その後は小幅なレンジでの値動きが続いた。13日はトルコで事業を展開するマレーシア・エアポートとIHHヘルスケアの株価下落が響き、指数は前営業日比1.2%安。その後は15日まで小幅に続伸したが、16日は利益確定売りで反落した。一方、17日は4-6月期のGDP成長率が前年同期比4.5%と市場予想を下回ったものの、中央銀行が輸出業者に対する外貨の両替義務規制を緩和したことが好感され、反発して引けた。今週は24日に7月のCPIが発表される予定。22日はハリヤハジの祝日で休場となる。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。